

## 第3学年C組 音楽科学習指導案

授業者 荒井 瞬

## 1 題材名 音の重なり方を感じながら、ミニマルミュージックを楽しもう（創作・鑑賞）

## 2 題材について

## (1) 生徒の実態から

生徒は、音楽を表現することや鑑賞することなどの様々な活動に興味をもっている。そして、それらに必要な技能や知識等を得たいと考えており、授業に対して真面目に取り組んでいる。また、音楽表現をすることに対して積極的に、一人一人の生徒が主体的に活動に取り組むことができていく。

本題材では創作・鑑賞分野の学習として、音型を反復、変化させながら音を重ね、試行錯誤しながらミニマルミュージックの要素を取り入れた音楽を創作することや、創作したことを踏まえて音楽の構成に着目しながら、反復、変化によって生み出されるミニマルミュージックのよさや魅力を味わわせていくことをねらいとしている。本題材の創作では1人1台32鍵盤のキーボードを活用するほか、オンライン楽譜作成ソフトウェア「Flat」を併用しながら授業を展開していく。また生徒が思考・判断のよりどころとなる要素を捉え音楽をつくることができるよう、ICTを活用したフィードバックを工夫していく。生徒が学習の理解の度合いを把握し、思考・判断を効果的に行えるようにすることで、より主体的、協働的に本題材の学習に取り組むことができるようにしていく。

なお本題材では、平成29年度告示の学習指導要領の「A表現」(3)創作の事項ア・イの(イ)・ウ、「B鑑賞」の事項アの(ア)(イ)・イの(ア)を指導するものとする。加えて、〔共通事項〕の事項アの音楽を形づくっている要素において、思考・判断のよりどころとなる主な要素として音色、テクスチャ、構成を扱う。事項イとして、これらの要素と関わらせながら拍、拍子を扱う。

## (2) 本校の研究内容と本題材の関連について

## 【手立て1】：挑戦心を引き出す学習指導の工夫

他者と協働しながら音楽とより深く関わるができるよう、思考・判断を深めていくために他者との協働をせざるを得ない課題を設定する。ミニマルミュージックの音型の重なりを捉えていくことは難しく、他者と協働する必要感を実感させたのちに、ミニマルミュージックのテクスチャ、構成について聴くポイントを複数提示し、グループ内の様々な視点から思考・判断を深めていくことができるようにする。グループ内での意見交換を経て学級で共有したのち、一人一人が表したいイメージと関わらせながら作品をつくることができるようにする。

## 【手立て2】：個別最適な学びの工夫

個別最適な学びの工夫として、生徒の創作の実態に合わせた個別のフィードバックについて、ICTを活用して毎時間実施していく。具体的には、生徒が思考・判断のよりどころとなる要素を効果的に捉えることができるようにするために、生徒の楽譜データ上にアノテーション機能でコメントする。それぞれの生徒の課題の進行に合わせながら適切なアドバイスを行えるよう工夫し、試行錯誤の過程の中で生徒の思考・判断がより深まっていくことができるようにする。

## 3 題材の目標

- (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの特徴を理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。 <知識及び技能>
- (2) 音色、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠や、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) 音色、テクスチャ、構成によって生み出される雰囲気などに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作や鑑賞の学習活動に取り組む。 <学びに向かう力、人間性等>

## 4 教材について

## (1) 本題材における創作に関わる課題や条件について

課題	2声部によるミニマルミュージックの要素を取り入れた音楽をつくる。
条件	・拍子は4分の4拍子とする。速度、小節数は特に指定しない。 ・音色は知覚・感受したことを踏まえて、表したいイメージと関わらせながら決定する。 ・使用する音はレ、ミ、ソ、ラ、シの5音とする。 ・1小節ごとに必ず反復記号を入れる。反復記号は8回繰り返すものとする。

## (2) 表したいイメージについて（知覚・感受したことを踏まえてイメージする）

- ・反復する二つの音型の音の重ね方を、どのように工夫、変化させていくかについて

- ・音楽の終わり方と、終わりに向かう音楽の過程や構成をどのようにするかについて  
主に以上2点を「表したいイメージ」とし、2つの音型のテクスチュア、反復、変化などの構成から知覚・感受したことをもとに、表したいイメージと関わらせながらミニマルミュージックの要素を取り入れた音楽をつくる。

(3)使用教材について

創作領域に関わる教材

- ・ステイブ・ライヒ 「エレクトリック・カウンターポイント」「ピアノ・フェイズ」

鑑賞領域に関わる教材

- ・ステイブ・ライヒ 「エイト・ライズ」
- ・世界の諸民族の音楽より 西アフリカ「バラフォンの合奏」インドネシア「ガムラン」
- ・久石 譲 映画「となりのトトロ」より「風の通り道」

(4)使用機材及びICT環境について

- ・一人一台PC端末 ・一人一台キーボード (32鍵盤)
- ・アプリケーション オンライン楽譜作成ソフトウェア「Flat」(以下Flatと記載する)

5 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<p><b>知①</b>音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。(創作)</p> <p><b>技</b>創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要なリズム、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。(創作)</p> <p><b>知②</b>曲想と音楽の構造との関わりを理解している。(鑑賞)</p>	<p><b>思①</b>音色、テクスチュア、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(創作)</p> <p><b>思②</b>音色、テクスチュア、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠や、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(鑑賞)</p>	<p><b>態</b>音色、テクスチュア、構成によって生み出される雰囲気などに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(創作・鑑賞)</p>
1時			
2時	<b>知①</b>		
3時			
4時		<b>技</b>	
5時	<b>知②</b>	<b>思①</b> <b>思②</b>	<b>態</b>

6 指導と評価の計画(全5時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法 ★学校研究とのかかわり【手立て】
1	<p>◆テクスチュア、構成によって生み出されるミニマルミュージックの雰囲気などに関心をもつ。</p> <p>○ミニマルミュージックに関心を持ち、構成の特徴について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エレクトリック・カウンターポイント」を構成の特徴(反復、変化)に注目しながら聴く。</li> <li>・音楽が反復、変化することによって何を表現しようとしているのかについて考え、意見交換する。</li> <li>・ミニマルミュージックについて各自PCで調べ、どんな音楽があるか探し、聴いてみる。</li> </ul> <p>○テクスチュアを知覚・感受し、試行錯誤しながら二つの異なる音型をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が提示する音型を比較聴取し、リズムに注目してそれぞれどのような感じがするか考える。</li> <li>①ゆるやかなリズムの音型 ②細かいリズムの音型</li> <li>・教師が提示する音型の音の重なりのパターンを比較聴取し、それぞれどのような感じがするか考える。</li> <li>①同じリズム ②異なるリズム ③カノン</li> <li>・音の重なり方から知覚・感受したことを踏まえて、試行錯誤しながら2つの声部の音型をつくる。</li> </ul>	<p>○聴く視点を提示した上で、音楽的な特徴について考えさせるようにする。</p> <p>○音型が反復することによってどんな感じがするか、現時点での考えを素直に書かせるようにする。</p> <p>○現段階で各々の視点で調べ、音楽を聴いてみたり、意見交換をしたりさせるようにする。</p> <p>○音型は全てFlatを使用して提示し、生徒の端末からいつでも教師が提示した資料(楽譜、音源)を確認できるようにする。</p> <p>○音の重なり方の3つのパターンをFlatで示し、実際に音を聴きながら確認し、それぞれの音楽的な特徴からどのような感じがするか考えさせるようにする。</p> <p>○知覚・感受したことを踏まえ、表したいイメージと関わらせてキーボードで実際に弾いたり、Flatで音を重ねたりして試行錯誤させ、2つの音型を考えさせるようにする。</p> <p>☆<b>技</b>・<b>思</b>・<b>態</b>: ワークシート、オンライン上のデータ(以降、題材を通して経過を記録していく)</p>

2	<p>◆音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの特徴を表したいイメージと関わらせながら理解する。</p> <p>○音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの特徴を表したいイメージと関わらせながら理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時でつくった2つの音型を重ね，音の重なり方からどのような感じがするか，またどのような音楽的な特徴があるか考える。</li> <li>教師が提示する2つの音型の音色を聴き，どのような感じがするか考える。</li> <li>①Part 1：マリンバ Part 2：マリンバ</li> <li>②Part 1：クラシックギター Part 2：クラシックギター</li> <li>③Part 1：マリンバ Part 2：クラシックギター</li> <li>自分でつくった音型の音の重なり方から感じ取ったことを踏まえ，2つの音型の音色を考える。</li> <li>教師が提示する音型の音の変化のパターンを比較聴取し，どのような感じがするか考える。</li> <li>①少しずつ音が増えていく変化</li> <li>②少しずつ音が減っていく変化</li> <li>③少しずつ音が変わる変化</li> <li>「ピアノ・フェイズ」を，音の重なり方がどのように変化していくか注目しながら聴く。</li> <li>少しずつ変化する音の重なり方について，どのような感じがするか考え，意見交換する。</li> <li>知覚・感受したことを踏まえ，反復する2つの音型の音の重なり方をどのように変化させていくか考え，試行錯誤しながら音楽をつくる。</li> </ul>	<p>○前時で学習した音型の音の重なりのパターンを比較聴取し，自分がつくった音型の音の重ね方がどのパターンに当てはまるか考えさせるようにする。</p> <p>○鍵盤打楽器と撥弦楽器を例に出し，実際にマリンバとクラシックギターを用意し，それぞれの楽器の音色，音の重なりの特徴を考えさせるようにする。</p> <p>○自分でつくった音型の音の重なり方から感じ取ったことを踏まえて考えさせるようにする。</p> <p>○音型の音の変化のパターンをFlatで示し，実際に音を聴きながら確認し，それぞれの音楽的な特徴からどのような感じがするか考えさせるようにする。</p> <p>○2つの全く同じ音型が，徐々にずれていくことによって音楽が変容していく音楽的な特徴から，どのような感じがするか考えさせるようにする。</p> <p>○前時で確認した音の重なりのパターンの，カノンに分類されることを理解させるようにする。</p> <p>★<u>試行錯誤の過程の中で，思考・判断のよりどころとなる要素を捉えながら音楽をつくることができるようFlatのアノテーション機能を使用し，それぞれの生徒の音楽の実態に合わせてフィードバックを行う。</u></p> <p>【手立て2】</p> <p>☆<u>知①</u>：ワークシート，オンライン上のデータ</p>
3	<p>◆テクスチャ，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>○テクスチャ，構成を知覚・感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エレクトリック・カウンターポイント」と「ピアノ・フェイズ」の終わり方のテクスチャ，構成に注目しながら聴く。</li> <li>音楽的な特徴について感じ取ったことをグループで意見交換し，クラス全体で共有する。</li> <li>音楽の終わり方と，終わりに向かう音楽の過程をどのようにするか，テクスチャ，構成を思考・判断のよりどころとしながら，どのように音楽をつくるかについて考え記述する。</li> <li>知覚・感受して思考・判断したことと表したいイメージを関わらせながら，音楽を試行錯誤しながらつくる。</li> <li>Flatのクラウド上にある，生徒がつくった音楽をスクリーンに共有し，創作にあたって工夫した点などを共有しながら発表し合う。</li> </ul>	<p>○ミニマルミュージックを終わらせるにはどうすればよいのかという問いを与える。</p> <p>★<u>聴くポイントを複数提示し，テクスチャと構成に注目させるようにする。</u></p> <p>①<u>既習内容の音の重なりのパターンについて</u></p> <p>②<u>既習内容の音の変化のパターンについて【手立て1】</u></p> <p>○音楽の全体像を踏まえ，どのように音楽を終わらせたかについて思いや意図をもたせ，ワークシートに記述させるようにする。</p> <p>★<u>試行錯誤の過程の中で，前時に一人ひとりの生徒にフィードバックした内容をもとに，Flatのアノテーション機能を使用し，それぞれの生徒の音楽の実態に合わせてフィードバックを行う。</u></p> <p>☆<u>思①</u>：ワークシート，オンライン上のデータ</p> <p>○ワークシートの内容を共有しながら，どのような思いや意図をもって音楽をつくったかについて共有しながら発表を聞き，自分の作品に生かしたり参考にさせるようにする。</p>
4	<p>◆創意工夫を生かした表現で音楽表現をするために必要な音色，テクスチャ，構成の特徴を生かした表現で音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。</p> <p>○音色，テクスチャ，構成の特徴を生かした表現で音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Flatのクラウド上にある，クラスの生徒の音楽をそれぞれ聴きあう。</li> <li>Flatアノテーション機能を使用し，音色，テクスチャ，構成について工夫されていると思った場面を，グループの生徒同士で楽譜上に書き込む。</li> </ul>	<p>○クラスごとに分かれているフォルダを選択させ，Flat上で音楽を再生させるようにする。</p> <p>○音色，テクスチャ，構成の視点を与え，どのような音楽的な工夫が見られたか，生徒同士でアノテーション機能を利用し，直接データに記入させるようにする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>同じクラスの生徒の作品を聴いて、どのように感じたかについてFormsで回答し、意見を集約し共有する。</li> <li>創作にあたって工夫したことをFlatアノテーション機能で楽譜上に書き込み、作品をFlat上に提出する。</li> </ul>	<p>○その場で集約し、スクリーンに投影し共有する。音楽的な工夫が顕著に見られた作品は全体で共有し聴かせるようにする。</p> <p>☆<b>図</b>・<b>思</b>①：ワークシート、オンライン上のデータ</p>
<p>5 ◆音色、テクスチャ、構成の特徴と音楽の構造との関わりを理解し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠と音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○曲想と音楽の構造との関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造との関わりを感じ取りながら音楽を鑑賞し、音楽的な特徴について意見交換を行う。</li> <li>①エイト・ラインズ ②バラフォンの合奏 ③ガムラン ④風の通り道</li> </ul> <p>○知覚・感受したことを踏まえ、曲や演奏に対する評価とその根拠や、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの音楽のよさや美しさを、知覚・感受したことを踏まえて記述する。</li> <li>創作で学習した内容を生かし、音楽表現の共通性や固有性について考える。</li> </ul> <p>○題材のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽が反復、変化することによって何を表現しようとしているのか、題材を通して学んだり考えたりしたことを踏まえて、改めてその意味を考える。</li> <li>身近にある音楽を見つめなおし、自分自身はどのように音や音楽と関わっていくかについて考える。</li> </ul>	<p>○前時までに取り組んだ、音色、テクスチャ、構成の特徴を生かして創意工夫しながら音楽創作する学習を踏まえ、本時で扱う四つの楽曲について、音色、テクスチャ、構成の特徴に注目させながら考えさせるようにする</p> <p>☆<b>図</b>②：ワークシート</p> <p>○音楽のよさや美しさを感じ取るとともに、ミニマルミュージックの音楽的な特徴の原点となっている世界の諸民族の音楽や、ミニマルミュージックに影響を受けた作品を聴くことによって、音楽表現の共通性や、ミニマルミュージックがもつ音楽の固有性について考えさせるようにする。</p> <p>☆<b>思</b>②：ワークシート</p> <p>○第1時と全く同じ問いをすることによって、構成（反復、変化）の捉えがどのように変容したか確認する。</p> <p>○自分自身と音楽との関わりについて考えさせ、音楽と今後どのように関わっていきたいか、率直な意見を書かせるようにする。</p> <p>☆<b>図</b>：ワークシート</p>

## 7 本時の学習指導（3／5校時）

### (1) 本時の目標

テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

### (2) 展開

○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法 ★学校研究とのかかわり【手立て】
<p>○テクスチャ、構成を知覚・感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エレクトリック・カウンターポイント」と「ピアノ・フェイズ」の終わり方のテクスチャ、構成に注目しながら聴く。</li> <li>音楽的な特徴について感じ取ったことをグループで意見交換し、クラス全体で共有する。</li> <li>音楽の終わり方と、終わりに向かう音楽の過程をどのようにするか、テクスチャ、構成を思考・判断のよりどころとしながら、どのように音楽をつくるかについて考え記述する。</li> <li>知覚・感受して思考・判断したことと表したいイメージを関わらせながら、音楽を試行錯誤しながらつくる。</li> </ul> <p>・Flatのクラウド上にある、生徒がつくった音楽をスクリーンに共有し、創作にあたって工夫した点などを共有しながら発表し合う。</p>	<p>○ミニマルミュージックを終わらせるにはどうすればよいのかという問いを与える。</p> <p>★<u>聴くポイントを複数提示し、テクスチャと構成に注目させるようにする。</u></p> <p>①<u>既習内容の音の重なりのパターンについて</u></p> <p>②<u>既習内容の音の変化のパターンについて【手立て1】</u></p> <p>○音楽の全体像を踏まえ、どのように音楽を終わらせたかについて思いや意図をもたせ、ワークシートに記述させるようにする。</p> <p>★<u>試行錯誤の過程の中で、前時に一人ひとりの生徒にフィードバックした内容をもとに、Flatのアノテーション機能を使用し、それぞれの生徒の音楽の実態に合わせてフィードバックを行う。</u>【手立て2】</p> <p>☆テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>(<b>思</b>①：ワークシート、オンライン上のデータ)</p> <p>○ワークシートの内容を共有しながら、どのような思いや意図をもって音楽をつくったかについて共有しながら発表を聞き、自分の作品に生かしたり参考にさせるようにする。</p>

8 備考 在籍生徒数 男子18名 女子18名 計36名